

ユズにおけるカンキツ幹腐病の感染時期と薬剤防除

背景と課題

カンキツ幹腐病は、徳島県のユズの主産地である那賀川上流の多雨地域で発生が多く認められ、枝幹部がすり鉢状または溝状にくぼみ、木質部まで腐る。このため、果実の重みや風によって枝が折れやすくなり、症状がさらに進むと枯死に至るなど、栽培上大きな障害となっている。

研究の目的

そこで、これまで明確になっていなかったカンキツ幹腐病の感染時期を明らかにするとともに、薬剤の防除効果とその散布時期・回数を検討し、薬剤防除技術を確立に資する。

研究の内容および成果

1. カンキツ幹腐病の子のう胞子は主に5月上旬～10月中旬まで飛散する。飛散量は梅雨期に多く、降水量の多い年は8～10月にも多い(図1)。

2. ユズへの感染は5～10月でみられ、特に6、7月に多い。

3. 未発生地で育苗することで育苗時の感染を防止できる(データ省略)。

4. 発芽前の散布剤として、icボルドー66Dの50倍石灰硫黄合剤30倍に、生育期の散布剤として、キノドー水和剤800倍とマンゼブ水和剤600倍に防除効果が認められる(図2)。

5. 有効な薬剤を5月下旬と6月下旬、7月中旬の計3回散布することで、実用的な防除効果が期待できる(図3)。

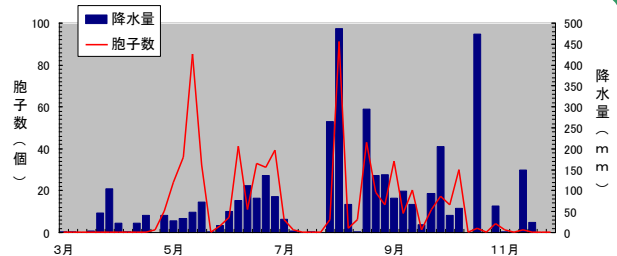


図1 病原菌の子のう胞子飛散消長と降水量 (2004年、勝浦町)

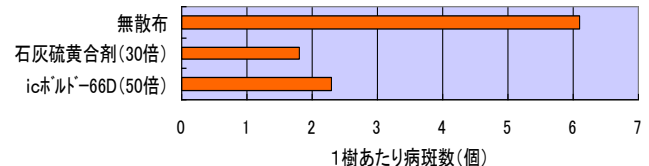


図2 カンキツ幹腐病に対する防除効果試験 (発芽前3月下旬～4月上旬1回散布)

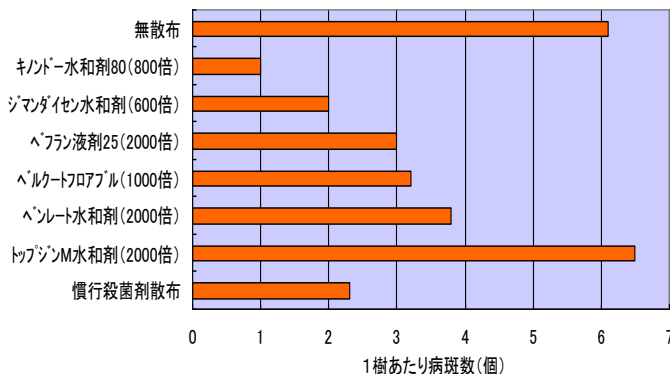


図3 カンキツ幹腐病に対する防除効果試験 (生育期5～9月に5回散布)

表1 ユズの幹腐病に登録のある農薬一覧(H25年10月現在)

農薬の商品名	有効成分	使用方法概略
キノドー水和剤80	有機銅	散布
オキシドー水和剤80	有機銅	散布
ハルクートフロアブル	イミノクタジアルベシル酸塩	散布
ジマンダイセン水和剤	マンゼブ	散布
ベフラン液剤25	イミノクタジン酢酸塩	散布
ベフラン液剤12.5	イミノクタジン酢酸塩	散布
トップジンMペースト	チオファネートメチル	塗布
パッチレート	有機銅	塗布
ICボルドー66D	銅	散布

農薬の使用に際しては、ラベル等を読んで適正な使用を守ること。

(研究期間：平成14年～20年；県単試験研究)

生産者のみなさまへ

ユズに発生するカンキツ幹腐病の主要感染時期は、6～7月である。防除薬剤は発芽前は銅水和剤、石灰硫黄合剤、生育期は有機銅水和剤、マンゼブ水和剤が高い防除効果がある。5月下旬、6月下旬、7月中旬の3回散布で実用的な防除効果がある。薬剤散布は、枝幹部にも十分薬剤がかかるように散布すること。

問合せ先 徳島県立農林水産総合技術支援センター
資源環境研究課 病害虫・鳥獣担当
電話 088-674-1954